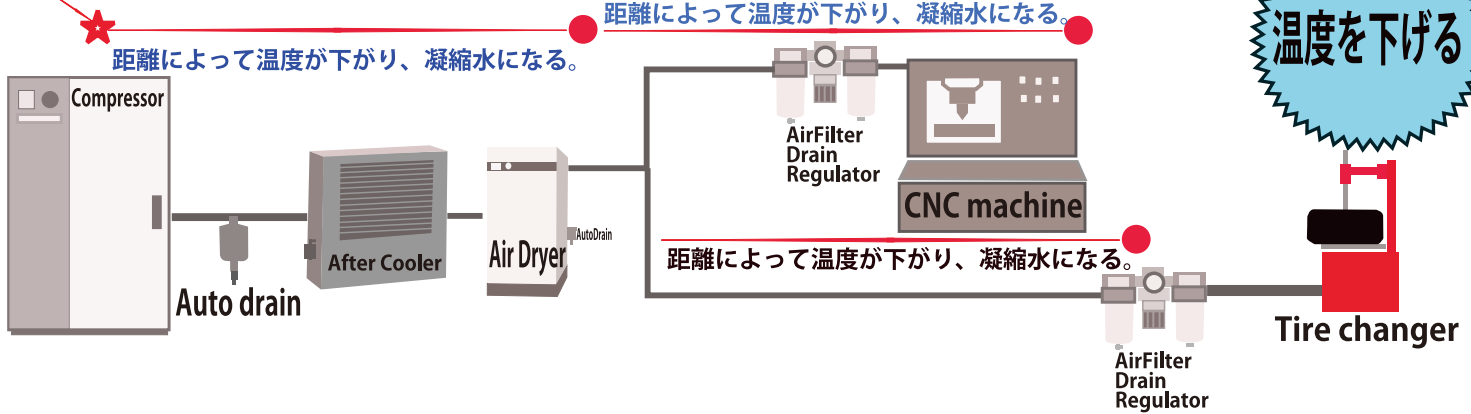


目的は水（凝縮水）の除去です！ レイアウトの比較

☆一般的な配管レイアウト

- コンプレッサーから出た空気は乾き空気を含む湿り気の状態で見える水ではない。配管内の温度が低下し、連続的に凝縮水となります。



- ☆エアドライヤーが露点温度圧力下 10℃であれば夏の気温で配管内温度が 10℃以下にはならないので凝縮水はドレン水として、出る理由がないのでは！

- ☆エアドライヤーを夏に使用するには前に、アフタークーラーが必要

- ☆フィルターも目的に合ったメッシュが必要
(細かいごみを取るには段階的に取らないと目詰まりする。)

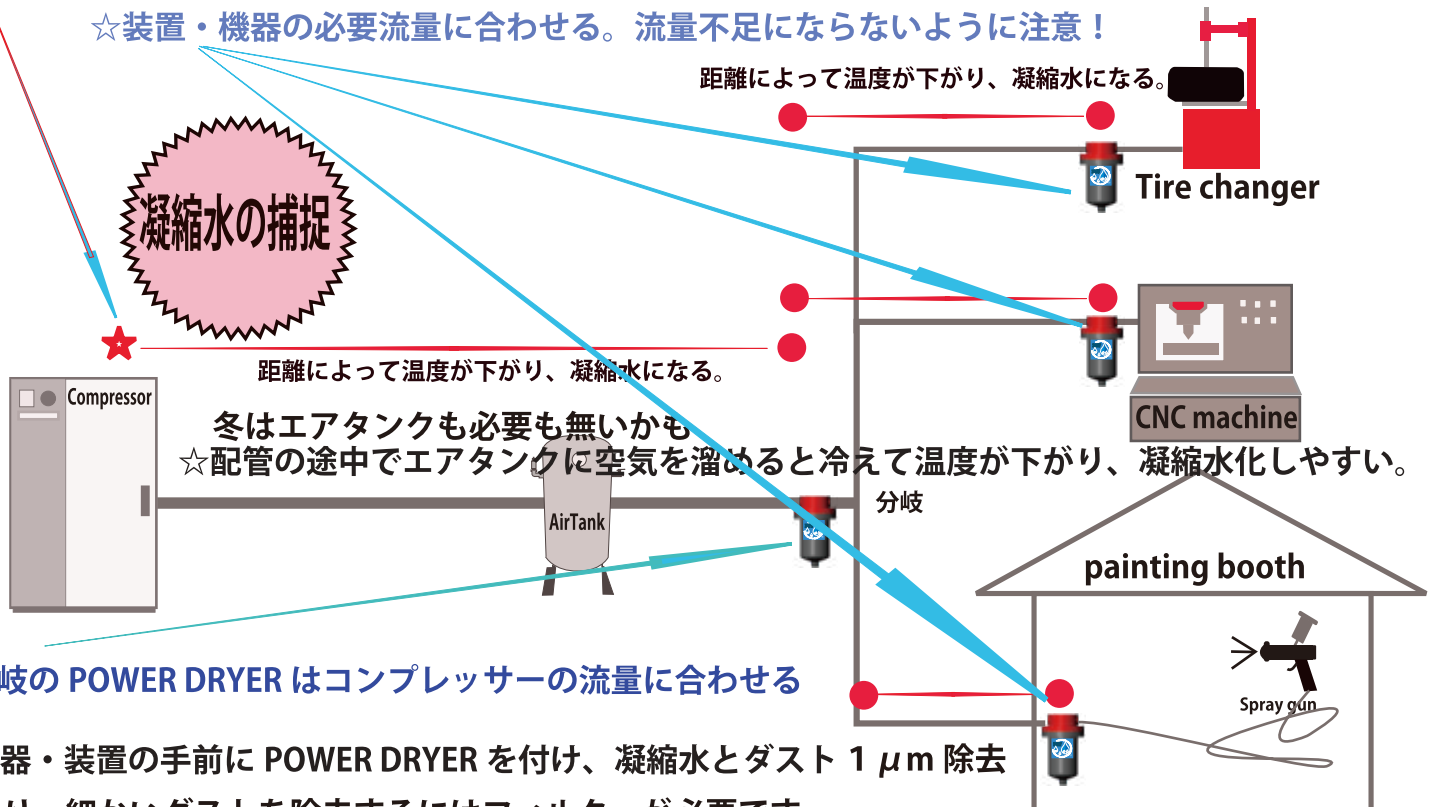
低露点を目的とする場合はさらに低露点装置を追加するが多い。

コンプレッサーにタンクがある時は溜まるドレン水を定期的に排出するか、オートドレンを装備する。
(溜まりすぎると散水タンクになる可能性も)

☆POWER DRYER の発想！凝縮水を捕捉！ 圧力下露点 3℃下げてドライエアに

- コンプレッサーから出た空気は乾き空気を含む湿り気の状態で見える水ではない。配管内の温度が低下し、連続的に凝縮水となります。(配管内の露点温度は連続的に変化する。)

- ☆装置・機器の必要流量に合わせる。流量不足にならないように注意！



- ☆分岐の POWER DRYER はコンプレッサーの流量に合わせる

- ☆機器・装置の手前に POWER DRYER を付け、凝縮水とダスト 1 μm 除去より、細かいダストを除去するにはフィルターが必要です。